

日本学校教育相談学会

THE JAPANESE ASSOCIATION OF SCHOOL COUNSELING AND GUIDANCE

栃木県支部会報 2025.03.31

NO.42

- 第44回支部研究発表会レポート
- カウンセリング特別講座Ⅱ「発達障がいと不登校を多角的（教育・心理・福祉）に考える
講師：佐野 治 氏（福井県立大学教授）
- 第35回中央研修会レポート
- 冬季特別研修会「WISC 心理検査を学校現場でどう生かすか〜検査結果の見方・活用法〜」
講師：原田浩司氏（学校カウンセラーSV・特別支援教育士SV、宇都宮LDサポートセンター）
- 精神医学特別講座「ピンチは、ピンチ、でもチャンス」 講師：松本憲郎氏（精神保健指定医）
- 第17回とちぎ教育相談カフェ
- 学会新刊特別割引きのご案内・栃木県支部事務局からのお知らせ

○ 第44回支部研究発表会レポート

発表者 公立小学校教諭 斎藤悠雅 先生

コメンテーター 支部理事（学校カウンセラーSV） 馬場友治 氏

令和6年11月3日、今年度2回目となる第44回支部研究発表会が開催されました。今回のテーマは、前回に引き続き「対人関係ゲーム」の実践についてでした。発表者として登壇されたのは、壬生町の小学校に勤務されている斎藤悠雅先生です。

斎藤先生は、現代の子どもたちが抱える対人関係の問題に対して、このゲームがどのように役立つかを具体的な事例を交えて説明されました。実際の授業風景や子どもたちの反応を映像で紹介しながら、対人関係ゲームの具体的な進行方法を示しました。ゲーム中に見られた子どもたちの協力の様子や、問題解決の過程で発揮された創造性などが印象的でした。また、ゲーム終了後に行ったアンケート調査の結果も示され、そこからも子どもたちの対人関係の改善や自己肯定感の向上が確認されました。



報告後には、参加者から多くの質問やコメントが寄せられました。特に、ゲームの導入方法や他の教育現場での応用についての関心が高く、活発な意見交換が行われました。斎藤先生は、丁寧に一つ一つの質問に答え、実践の成功例や課題についても率直に語られました。

今回の研究会を通じて、多くの学校で「対人関係ゲーム」が広がり、子どもたちの関わり合いの向上に寄与することが期待されます。斎藤先生は、今後もこの取り組みを続け、効果的な教育方法の開発に努めることを表明されました。

第43回・44回の支部研究会は、「対人関係ゲーム」の実践について深く掘り下げる貴重な機会となりました。前回の黒須先生・斎川先生、今回の斎藤悠雅先生の実践報告は、多くの現場の先生方にとって非常に有益であり、大いに参考になることでしょう。支部研究会を契機に、さらなる研究と実践が進むことを期待しています。（文責・伊澤 孝）

○ カウンセリング特別講座Ⅱ レポート（令和6年12月7日）

「発達障害と不登校を多角的（教育・心理・福祉）に考える」

講師 福井県立大学教授 佐野 治 氏

佐野先生のご講演では、始めに、増加傾向が顕著な不登校の現状について、そして学校生活に著しい困難を示すこ

ともある発達障害児童生徒の現状についてお話がありました。そして、いずれの問題にしても、ケースバイケースの対応が必要になるが、支援のポイントとして共通することに「早期発見」「早期つなぎ」「家族の協力」があるのではないかと示されました。

さらに、学校現場では、チーム支援を掲げながらも、校内のみの情報共有に留まってしまい、必要なタイミングで外部機関（専門機関等）に繋がることのできないために、抱える問題が長期化深刻化してしまうケースもあるのではないかと問題提起されました。

その後、先生のSCとしての豊富なご経験から「早期つなぎ」の具体例をたくさん示してくださいました。中でも<SC、SSWへのつなぎ><医療機関へのつなぎ><行政機関へのつなぎ>さらには<スクールロイヤーへのつなぎ>などについては、チーム支援や伴走型支援を実践していく上で参考になる点が多々あり、参加者からは関連する質問も出されていました。

困難なケースに対応していくなかで、教師自身が疲弊しないことがとても大事と強調された佐野先生の言葉に、多くの参加者がうなずいていたのも印象的なご講演でした。

（文責：佐藤佳子）

○ 第35回中央研修会レポート（令和7年1月26日）

令和6年度日本学校教育相談学会第35回中央研修会 Cコース講座

「特異な才能のある児童生徒に対する理解と支援」 関西大学名誉教授 松村暢隆 氏

私自身、特異な才能のある生徒の幾人かに出会ってきたように思う。私がそう感じただけで客観的なデータなどある訳ではない。しかもそういう生徒への具体的な支援の方法を熟知している訳ではない。ただ、「特異な才能」に着目し、それを生かし、伸ばしていくことを応援してただけである。今回、この研修を受講し、「特異な才能」のある児童・生徒を発掘し支援・指導していくことがいかに難しいかよく分かった。この研修の内容そのものが私にとっては難しいものであった。それは「有識者会議」という言葉に表されているように日本という国の中ではまだまだ研究段階にあるからだろうと思う。

（文科省）あくまで、学習上、生活上の困難の解消を重視→才能伸長につながる というのが目的。日本では、特別支援教育と並ぶ新たな「才能教育」の制度は設けない！

※特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援の推進事業から一つだけ挙げておく。

～多様性を認め合う個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の一環として～

（3） 特異な才能のある児童生徒に対する指導・支援に関する実証研究

…長野県教委、八王子市教委、鎌倉市教委、名古屋市教委、京都市教委、東京学芸大付属小金井小、筑駒中高校、三重大附小、（学）星槎

※また、「『ギフテッド』という語を文科省は用いない」としている。その理由は、「ギフテッド＝発達障害」という誤解がある。発達障害関連の受診で、知能検査の全検査IQ／一部の指標が高得点の場合、「ギフテッド」だと指摘（判定）されることもあるが、診断名ではない。

※「特異な才能のある児童生徒への支援・指導」について留意すべき点をいくつか挙げておく。（松村先生の資料から）

※「特異な才能」を一律に特定の基準・数値で定義しない。（審議会のまとめ）

・少数の「特異な才能のある子」と大多数の「特異な才能のない子」に二分される→集団の分断、差別、妬み、いじめ、仲間はずれを引き起こす恐れ。

※才能のある子どもの指導・支援も、インクルーシブに学級等を拠点とする。

・才能の見出しは、子ども自身も行える。

※教室内で個別最適な学びの適切な環境があれば、全ての子どもは、自分で才能特性に合う、学習の内容・方法を主体的に見出す。

※教室での才能行動への教師の気づきが大切だ。

・才能行動は、子どもが興味をもって熱中して学んでいるのを教師が注意深く観察すれば、どの子にも見られる「きらめき」だ。才能行動や「困惑を感じていること」が気づかれない場合も少なくない。

◎子どもは理解・共感されていると感じるだけで気持ちが救われる場合もある。

（文責 佐藤 幹雄）

○ 冬季特別研修会

「WISC心理検査を学校現場でどう生かすか～検査結果の見方・活用法～」

講師：原田浩司 氏（特別支援教育士SV・学校カウンセラーSV、
筑波技術大学客員研究員ほか）

令和7年2月22日、とちぎ青少年センターにおいて、冬季特別研修会が開催されました。講師は、学会栃木県支

部理事で長年スクールカウンセラーとしてもご活躍の原田浩司先生です。原田先生は、言わずと知れた特別支援教育や個別心理検査のエキスパートです。

今回は、主流になりつつある WISC-V について、学校現場でどう生かすかということで、概論と事例を交えた講話をしていただきました。ここでは、参加した方には勿論、参加していない会員の方にも、ポイントを押さえ、少しでも実践に生かしていただけるように、原田先生ご自身に、概論部分の要点を整理していただきました。

1. WISC-V 知能検査の紹介

WISC™-V 知能検査



Wechsler Intelligence Scale for Children - Fifth Edition

略称 WISC-V (ウィス・ファイブ)

WISC-V 知能検査は、ウェクスラー児童用知能検査 WISC の最新日本版です。5歳0カ月～16歳11カ月の子どもの知能を測定する個別式の包括的な臨床検査であり、特定の認知領域の知的機能を表す5つの主要指標得点 (VCI、VSI、FRI、WMI、PSI) と全般的な知能を表す合成得点 (FSIQ)、子どもの認知能力や WISC-V の成績について付加的な情報を提供する5つの補助指標得点 (QRI、AWMI、NVI、GAI、CPI) を算出します。

2. WISC の歴史

WISC → WISC-R → WISC-III → WISC-IV → WISC-V

アメリカ	1949	1974	1991	2003	2014
(日本版)	1953	1978	1998	2010	2022)

3. WISC-V 改訂の特徴

①理論的基盤の更新

4 因子モデルから 5 因子モデルへ (PRT → VSI・PRI)

尺度の更新、新しい下位検査、新しい指標得点など、大幅な改訂

②子どもの発達に応じる適切性

教示の簡素化・積極的な例示や練習の採用、採点基準・時間割増点の見直し

③使いやすさの向上

実施・採点方法の単純化、中止条件の短縮など

④臨床的有用性 (例：非言語性能力 (NVI)：緘黙・難聴・外国籍児童に有用)

*再評価を行う場合、最低でも 1～2 年の間隔をあける。

⑤対象年齢：5歳0か月から16歳11月まで

⑥WISC-V 検査者の条件：公認心理師、言語聴覚士、臨床心理士、学校心理士、特別支援教育士、臨床発達心理士などの専門的な資格を有する者

4. WISC-V 心理検査で何がわかるか

①全体的な知的水準 (FSIQ) がわかる。

②指標得点から認知特性がわかる。

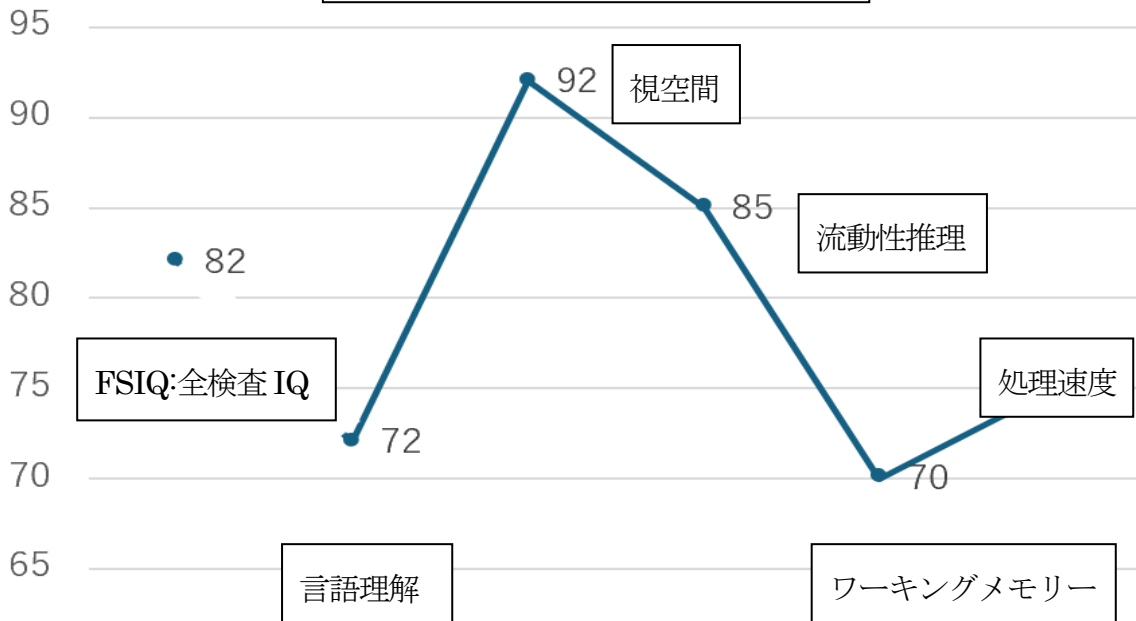
③指標得点の差が大きい場合は、有意差がわかる。

④検査結果の分析から、子どもが抱えている課題 (生活行動面や学習面など) の背景がわかる。

⑤担任や保護者へのフィードバックの際、エビデンスに基づいた説明ができる。

5. WISC-V 心理検査の見方

仮の事例 A（小学校 6 年生のケース）



(1) 全検査 IQ とは

100 が平均です。平均からどの位の差があるのかで、全体的な知的水準が分かります。

(2) 5つの主要指標とは

- ①「言語理解」：子どもが獲得した言葉の知識にアクセスし応用する能力を測定しています。語彙力や単語の知識、相手に分かるように説明することができるかで評価します。
- ②「視空間」：モデルから幾何学的デザインを構成するために、視覚的詳細を評価し、視空間関係を理解する子どもの能力を測定しています。積木やパズルを課題に応じて作成することにより、空間認知能力や目と手の協応などを評価します。モデルと同じように再現できない場合、漢字を正確に書くことができないことと関係します。
- ③「流動性推理」：視覚対象間の根底にある概念的関係を検出し、推理を用いてルを特定し応用する子どもの能力を測定します。複数の図からその関係性を推理し、課題に応じた図を選択することができるかで評価します。
- ④「ワーキングメモリー」：視覚や聴覚の情報を意識的に登録し、保持し、操作する子どもの能力を測定します。短期記憶を「聞いて記憶する」と「見て記憶する」とから評価します。集中力のない場合には、評価が低く出ることが多くあります。
- ⑤「処理速度」：子どもの視覚的判断、意思決定、決定実行の速度と正確さを測定します。鉛筆をもって、与えられた課題を短時間で正確に処理できるかで評価します。

(3) 事例 A（6年生の仮の事例）から何が分かるか

- ① 全体的な知的水準：IQ82(75～89) 非常に低い～平均の下であることが分かります。学力的には通常の授業を一斉指導だけでは厳しいと考えられます。一生懸命やらせるだけでは解決できないことが多くあります。
- ② 認知特性：このケースでは、視空間と流動性推理に対して言語理解とワーキングメモリー、処理速度が低い値です。本児の場合、視覚的な情報処理が有意ですが、言語面や短期記憶、処理能力の低さが目立ちます。
- ③ 主訴との関係：主訴は、勉強が苦手で成績が下降気味であること、落ち着きがなく忘れ物が多いことです。今ケースの場合、主訴とWISC-V検査結果は大いに関係があります。ADHDの疑いも考えられます。

6. 学校でどう活かすか

(1) どのようなときにWISC-V検査を勧めるか。

学習面：授業中、聞いているようだが、内容は理解できていないのではないかな。

個別に教えると、分かったと言うがテストをすると覚えていない。

板書を写すのにとても時間がかかる。

学習意欲をなくし、学習しようとしなない。

行動面：授業中、落ち着きがなく、黙っていられない。離席も多い。

暴言、暴力が多い。トラブルも多い。

コミュニケーションが苦手で、孤立気味である。

不登校や行き渋りが始まった。

(2) 学習や行動面の課題とWISC-V検査の関係

- ① 全体的な知的水準から、通常学級だけでよいのか、通級や支援学級を検討した方がよいのかのエビデンスが得られる。・・・FSIQ から判断できることが多い。
- ② 発達障害の疑いがあるのかが分かる。
 - ・落ち着きがなく多動、離席が多い。衝動的に発言したり行動したりする。忘れ物が大変多く、注意力散漫である。・・・「ADHD」の疑いがある。「FSIQ」「ワーキングメモリー」が低い場合が多い。
 - ・コミュニケーションが大変苦手である。・・・「ASD（自閉症スペクトラム）」の疑いがある。「FSIQ」「言語理解」「流動性推理」などとの関連する場合が多い。
 - ・読み書き・計算など基本的なスキルが練習しても身に付かない。・・・「FSIQ」「言語理解」「ワーキングメモリー」の低さと関連していることが多い。この場合は、LD 検査も必要である。
- ③ WISC-V検査結果だけでなく、授業観察や担任の見立てや保護者から生育歴など様々な情報を総合的に判断する。
 - ・検査結果だけで安易に判断することは避けなければならない。検査結果の分析は慎重に行う必要がある。経験が浅い場合には、経験者からのスーパーバイズが有効。
- ④ 学校現場で活かすことが大切である
 - ・WISC-V心理検査を受けるときは、学校や家庭での困り感が強い場合が多い。WISC-V心理検査は子どもの一生を左右することにもなりかねないので、結果を学校現場で有効に活かすことが必須である。一方、病院などで心理士がWISC-V心理検査を実施し、心理的分析を詳細に記述したのを見ると、学校でどのように活かすのかの具体策がなく抽象的な表現にとどまっていることが多い。せっかく、検査を実施し詳細な心理分析があっても、学校現場で活かさないことは残念である。心理検査は心理士と子どもが1対1で、守られた空間で実施されるので、子どもの本来もっている様々なポテンシャルを正確に計ることができる。一方で、子どもの困り感は、「集団生活」の中で発生することが多い。1対1での子どもの反応と集団での反応は、必ずしも同じでないことが多いので、心理検査だけで子どもを判断することはできない。心理的分析と集団で起因する課題の関係を総合的に分析することから「学校現場での具体的取り組み」を考えることが必要である。そうした意味で、心理と教育の連携は必須である。
 - ・学校現場に必要なことは、WISC-V心理検査結果から、学習や生活面での取り組みの工夫である。特に、学習面での具体的対応が分からなくて困っている場合が多い。ADHD や ASD は医師の診断書が出されたり、投薬したりする場合があり、行動面での改善につながる。一方で、「学習障害」と診断された場合には、学校側では何をすればよいのだろうか。「学習障害」への対応こそ学校側に求められている課題である。学習への困り感に対して「繰り返し指導」で終わっていることもよく耳にする。「学習障害」の中で一番多いのは「読み書き障害」であり、その中でも「読み障害」の改善には「何回も読む」だけでは不十分である。
 - ・今、求められているのは「合理的配慮」である。具体的には「DAISY 教科書」などのデジタル教材を活用することが有効であり、学校現場での具体的指導法が喫緊の課題となっている。すべての子どもたちが「個別最適な学び」に向かうことを願っている。
 - ・WISC-V検査結果を受け取ってから、学校でどのように対応してよいのかについての質問を多く受けます。検査を受けたのに、学校でそれを活用できなかったら大変残念なことです。そうした場合には、検査結果を教育的に分析できる専門家に相談してみてください。宇都宮 LD サポートセンターでは教師からの教育相談・カウンセリングも受け付けています。

○ 精神医学特別講座レポート（令和7年2月8日）

「ピンチはピンチ、でもチャンス」

講師 松本 憲郎 氏（精神保健指定医 ユング派分析家 心理療法室カムイプラヤ主宰）

「ピンチはチャンス」とは一時期流行った言葉です。何気なく口にもするこの言葉ですが、松本先生の講義を受講すると、その言葉が人間存在の本質に触れる深いものであることが分かりました。

松本先生は、日本のユング心理学の巨匠の故河合隼雄先生の研究を踏まえて、人間の「ピンチ」を無意識の働きから説明されました。

人間は日々成長し、日々の新しい経験を取り入れながら、内側からの生きる力をより大きくしていきます。しかし、意識しないで取り込まれた様々な経験と欲求が、意識している自分・自我と折り合いがつかなくなる時があるようで

す。松本先生によれば、これが人生の「ピンチ」です。しかしそれは、古い自我を脱ぎ捨てて、新しくより大きい自我・自分を作るための成長のきっかけだと分かりました。人生の出来事も、この考えで見ると、積極的な解釈の下に明るい一生を作る力になると思いました。家族の介護、自らの老い、子供の思春期とさまざまな問題に直面しますが、焦らず、じっくりと丁寧に生きていこうと、そんな勇気をいただいた講義でした。

(文責：原沢大生未)

○ 第17回とちぎ教育相談カフェ（令和6年10月5日）

「次のステージに向けたライフデザインを考えてみませんか」

講師 支部理事（学校カウンセラーSV） 馬場 友治 氏

今回の教育相談カフェは、シニアの時代＝人生の最終章をどのように幸福に過ごすか、またどのようにしたら幸福になれるか、というテーマでのお話でした。

高齢化社会の中で、幸福なシニアになることは、多くの人が願うことです。しかし、願ってはいるものの、物質的な情報に左右され、自分を見失いがちになるのが現状かも知れません。

馬場先生のお話では、シニアの実情、マズローやロジャーズの人間洞察についての知識、キャリアコンサルタントとしての知識と実践を踏まえて、シニア世代をしがらみから解放され本当の自分になれる時期とされていました。

しかし、解放されるとは一面、それまでの関係を喪失することでもあるそうです。それは、次に何かが始まるために「自分と向き合い、整理をして次に向かう」重要なことだそうです。新しいスタートのためには、今あるものを手

放すという「終わり」から始めねばならないとは、なるほどと思いました。それは、誰にも与えられる、次の成長のための大切なステップなのでしょう。それを生かすための5つの条件、「好奇心」「持続性」「楽観性」「柔軟性」「冒険心」これらを忘れないでいたいものだと思います。

シニアとは人生の完成の時期、しっかりと完成させたい、そんな思いもしました。

講座の末尾で、馬場先生が引き合いにだされた、相田みつをさんの「一生勉強 一生青春」の言葉もいちだと光りました。

日頃、教育相談の看板を掲げて他者に向かう前に、生きる上でもっと知らねばならないことがあるものだと思います。自分が少し、豊かになったような、学

びの一時でした。

(文責：原沢大生未)

○ 『学校教育相談 理論と実践のガイドブック』（ほんの森出版）刊行記念 特別割引（支部ごとの共同購入） のご案内

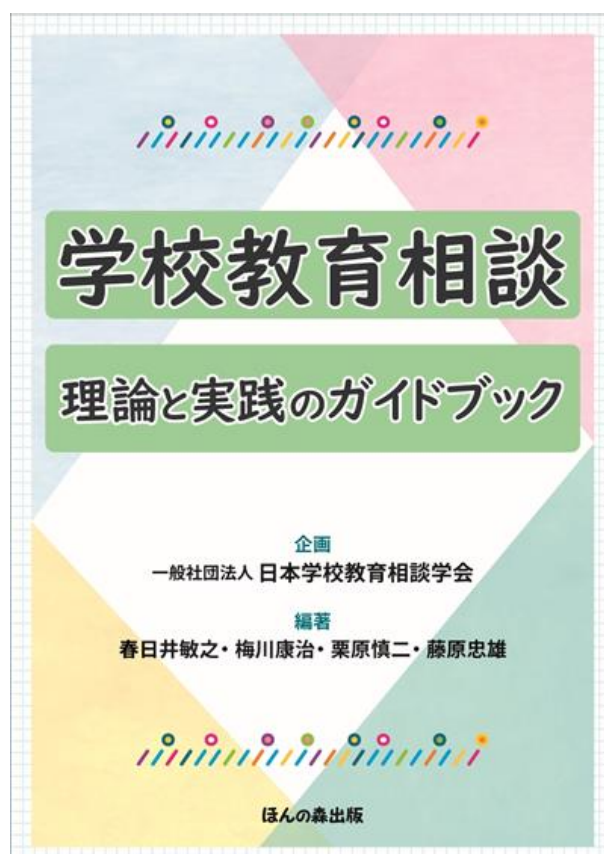
日本学校教育相談学会が企画した『学校教育相談—理論と実践のガイドブック』が刊行されました。刊行記念として、【各支部で10冊以上】注文がまとまった場合、ほんの森出版に【直接】申し込むと、【2割引】になります（【送は1個所、送金はまとめて】となります）。

一般社団法人 日本学校教育相談学会／企画
春日井敏之・梅川康治・栗原慎二・藤原忠雄／編著

定価 2,200 円 → 割引価格 1,760 円(税込) 送料無料！

※主な内容など書籍に関する詳細は、学会ホームページ（<https://jascg.info/>）のトップに書籍チラシへのリンクがあります。

そこで、栃木県支部では、下記のように申込みを取りとめ、共同購入を行います。新しい知見によるよりよい実践のため、この機会にぜひお買い求めください。



論
し
の
本

ま
実

新規会員の勧誘をお願いします。入会希望者がいた場合は、ご本人に学会本部ホームページの「入会案内」にアクセスするようにお伝えください。現在は、研修歴の基準や入会金がなくなり、入会しやすくなっています。学生でも入会が可能です。

(3) 令和7年度 事業計画 (案)

開催期日	事業名	会場	備考
6月7日(土) 総会 13:00 講演 13:30	【第36回総会 およびカウンセリング特別講座Ⅰ】 演題:「子どもの自立に向けて大人はどう構えるのか」 講師:山村達夫氏(まこと幼稚園理事長・園長、宇都宮大学客員教授)	教育会館 大ホール	参加費 無料
7月27日(土)	【夏季ワークショップ】		
8月2日(土)	【第18回とちぎ教育相談カフェ】 「応答演習」 チューター:築瀬のり子氏(相談学会SV)	青少年 センター	参加費 1,000円
8月9日(土)～ 8月10日(日)	【日本学校教育相談学会第36回総会・研究大会(京都大会)】 ※第三次案内及び学会ホームページで詳細案内があります	京都府	
9月13日(土) 13:30～16:00	【第45回支部研究発表会】 コメンテーター:佐藤幹雄氏(相談学会支部理事)	青少年 センター	発表者 募集
10月11日(土) 13:30～16:00	【第19回 とちぎ教育相談カフェ】 「こどもの可塑性と少年犯罪」 チューター:馬場友治氏(相談学会SV)	青少年 センター	参加費 1,000円
11月1日(土) 9:00～12:00 13:30～16:00	【支部認定委員会】 【第46回支部研究発表】 コメンテーター:柴一彌(相談学会支部理事)	青少年 センター	発表者 募集
11月22日(土) 13:30～16:00	【カウンセリング特別講座Ⅱ】 演題:「発達支持的生徒指導の推進と教育相談の役割」 講師:八並光俊氏(東京理科大学名誉教授)	教育会館 大ホール	参加費 無料
令和8年1月	【日本学校教育相談学会 第36回中央研修会】		
令和8年 2月7日(土) 13:30～16:00	【精神医学特別講座】 演題:「思春期の精神的問題の理解と対応・支援」 講師:衛藤進吉氏(上都賀総合病院認知症疾患医療センター長、精神科医)	教育会館 大ホール	参加費 無料
令和8年 2月28日(土) 13:00～16:00	【北関東山梨ブロック研修会】 演題:「未定」 講師:諸富祥彦氏(明治大学文学部教授、臨床心理士)	教育会館 大ホール	参加費 会員:2000円 一般:3000円

ニューズレター No.43、No.44 発行予定

【日本学校教育相談学会栃木県支部】

〒320-0066 宇都宮市駒生 1-1-6 教育会館 栃木県連合教育会教育事業部(教育相談)

日本学校教育相談学会栃木県支部事務局 吉川修司・佐藤佳子

TEL 028-627-5682 FAX 028-627-5682

E-Mail : jasc.tochigi@gmail.com ホームページ : <http://t-soudan.sakura.ne.jp/index.html>

(会員の部屋パスワード tb-jascg3123)

発行責任者 築瀬のり子

広報担当者 松本直美・小川正人・倉島郁乃・佐藤幹雄・馬場友治・原沢大生未・平峰孝二